

751



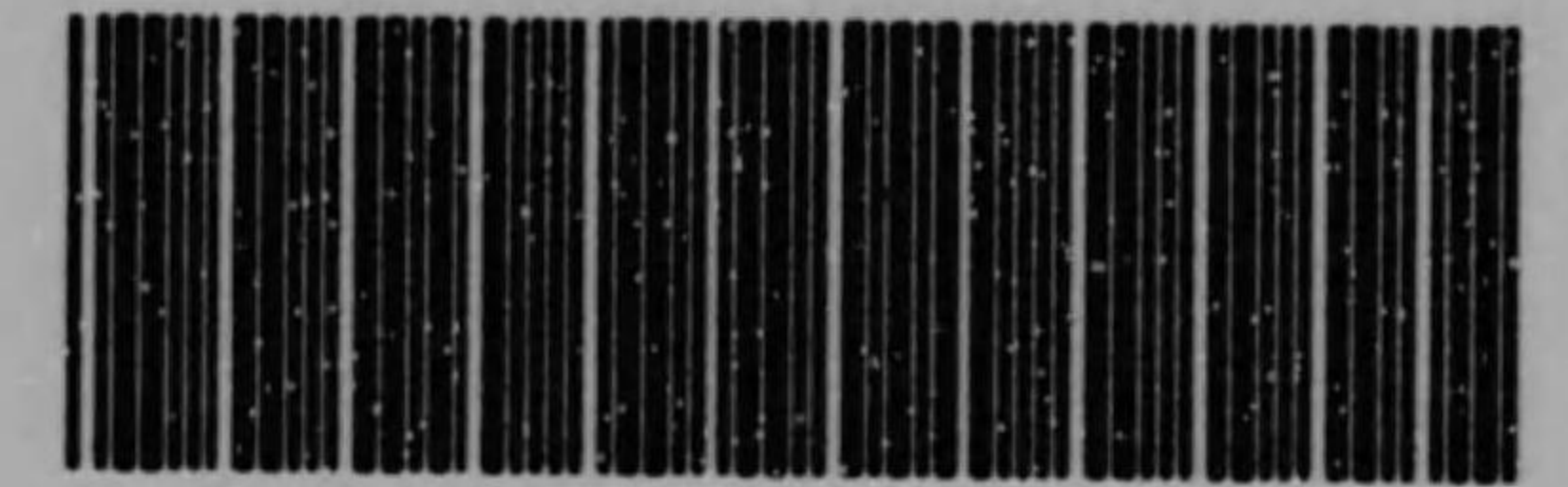
變事

特246
292

談美軍



愛國婦人會



0057746000

0057746-000

特246-292

支那事變海軍報國恤兵美談

愛國婦人會

第1輯

昭和12

AJG

世界空中戦史を飾る南京の大空中戦

海軍省軍事普及部

九月十九日以後天候の許す限り毎日幾回となく決行せられて居る海軍大飛行機群の南京空襲は、その規模の大なる事、実施の徹底的なる事、又その戦果の驚異的なる事に於て世界航空戦史に全く異色を見ざるものである。若し今日迄の三大殲滅戦を世界戦史に求めるならば、陸に於ては「ロンボンベルヒ」の會戦、海に於ては日本海々戦、而して空に於ては今回の南京空襲である。

此の光輝ある戦果を最も正しく戦後の同胞に傳ふるため本稿を上梓せんとするものである。勿論記述する所には些しの誇張もない事實その儘である。撃墜した敵の機数などは直接交戦した搭乗者の報告を集めたもので決して間違ひのない計りでなく不時着いたらしいと云ふ様な虚言なものはない。又我行方不明機は當然敵機を撃墜して居ると思ふけれども報告が...

今回の南京空襲を飾る前にそれ迄の経過を簡潔に述べなければならぬ。

支那は前年の上海事變に鑑み航空兵力の必要を痛感して特に之が充實に力を注ぎ既に第一次計畫を完了し、今次事變直前に保有して居た機数は約一〇〇〇機と稱せられて居た。勿論第一線に活躍せしめ得る優秀機は此内の一部分だらうと思ふ。

飛行機は殆ど總て外國から購入したもので米國品が大部分を占め獨、英、伊國から輸入したものも少くない。蔣介石の空軍充實の爲非常な宣傳をして飛行機や空軍資金を國民から献納せしめて居たもので國民は政府の宣傳に乗せられて支那空軍に相當の期待を持つて居たに違ひない。上海、杭州、南昌、南京、廣東等支那の最重要な空軍根據地



世界空史に輝く我が海軍

四
地に徹底的な空襲を蒙り彼等が絶大の期待をかけて居た空軍は空中の地上に徹底的破壊を受けたのであるからその失望の程を想像するに氣の毒な位である。

上海に於て交戦状態に入つたのは十三日である。此時は我海軍飛行機の活動するのにも最も都合の悪い時期であつた。それは琉球附近に猛烈な颱風が停滞して居て海軍飛行機は殆ど使用停止の状態に置かれたからである。支那に取つては絶好の機會であつたに違ひない。之を以て見て我海軍から仕掛けた戦闘であることは明かである。日本軍から此最も不利な時期に戦闘を仕掛ける事はない。

そして十四日には支那の爆撃機が多数上海上空に現れて無茶苦茶に爆弾を投下した。支那の飛行機は良い氣になつて上海上空を荒れ廻つた。本事業を通じて支那軍が最も活躍し最も得意だつたのは恐らく此の一日だつたらうと思ふ。

我軍は施す術なく僅かに上海附近碇泊の軍艦から救護の水上機を出して群る敵機に反撃を加へた。かの廣洋空軍隊と云はれる海軍爆撃機が頻りに杭州、甌昌に襲し決

十五日には大規模の空襲、杭州、甌昌空襲が決められ又上海上空にも我軍飛行機、爆撃機が活躍するやうになつたので支那空軍の無茶な盲爆撃は少くなつた。若し之が續けられたら多数の無茶の民を傷つけるばかりでなく外國の財産を損傷して支那自體益々困難な立場になつた事と思ふ。我海軍飛行機の出現は支那の國際的難境に陥るのを救つてやつたとも云へる。その後一週間程は「ブ羅斯ロップ」輕爆機の編隊に十機以上の戦闘機の掩護を附して奇襲的に晝間上海や揚子江方面軍艦の上空に現はれて爆撃をやつて居たが上海方面のみで我が上空直衝の戦闘機や水上偵察機に見附けられて度々撃ち落された、その数は二十五機以上で地上射撃で撃墜した數を加へると三十機位になると思はれる。

それ以後支那の飛行機は晝間は來なくなり夜間か夕刻主に「カーチスホーク」戦闘機が爆弾を持つて奇襲する位で上海上空は全く我海軍飛行機の獨壇場であつた。此頃陸軍の飯田部隊と海軍陸戦隊との協力で陸上飛行場が確保出來此處に多數の海軍飛行機が集中し又陸軍飛行機も陸揚せられた。

此状況に於て南京大空襲が計畫決行されたのである。

勿論之迄に大型の爆撃機隊を以て九回に亘り海を越えて南京空襲を決行して居る。併し敵の戦機を速滅して制空権を獲得せざる以上徹底的空襲の成果を擧げることが出来ないものである。

歐洲大戦中獨逸空軍の倫敦巴里空襲は夜間行はれて居る。それは敵戦闘機の反撃を怖れるからである。之では充分なる成果を収められない。

然るに今回の南京空襲は遣り方が違ふ。此の空襲が世界にその範を見ざる點は先づ敵戦闘機を滅したる後悠々無人の境を行くが如く攻撃機隊を以て晝夜を問はず一日に幾回となく空襲を決定した事である。

九月十九日午前八時戦闘機を主體とする海軍機數十機は上海上空に勢揃ひをして大編隊群を作りますさまじい唸りを立て、南京に直進した。我空襲部隊は成るべく多数の敵戦闘機と出會ふことを望んで居るのである。當時南京情況は如何かと云ふと事變勃發以來幾度か我海軍爆撃機隊の爆撃を受けたので防空砲臺を整備し戦闘機約五十機（支那空軍戦闘機隊の主力と思はる）を南京及其の東が何處飛行場に集結し日本飛行機の來襲を今か今かと待ち構へて居たのである。

我空襲部隊は先づ南京の手前の句容で陣列の一機が敵戦闘機と遭遇して壯烈な空中戦が演ぜられた。此處で多数の敵戦闘機を撃ち落したが我水上偵察機一機は敵機隊の集中攻撃を受けて行方不明となつた。此飛行機は歸途敵地に不時着して支那の「ジャンク」を奪ひ飛行機の機銃を積んで揚子江を下

江したと云ふ支那側からの噂もあつたが明かでない。若しそれが事實としても下流には支那軍艦が多数碇泊して嚴重警戒して居るので之を突破する事は出来な

い。恐らく悲壯な最後を遂げたことゝ信ずる。句容で敵戦闘機を蹴散らした我大編隊群はその儘堂々

南京上空に達したのである。南京上空には果して多数の「カーチスホーク」戦闘機が待ち構へて居たので敵都の上空に於て前代未聞の



(線戦南江) 下投彈爆！ワス

花々しい空中戦闘が展開されたのである。

敵機が恐れ居たのは敵戦闘機が見て逃げやしないかと云ふ事であつた。逃げられては撃ち落す事は出来ない。併し國民政府の御大蔣介石始め各主腦部及び七十萬の南京市民の見て居る上空に於て國民の信望を一身に集めて居る空軍飛行士が餘り卑怯な振舞も出来まい。又以前我軍機隊に損害を與へたので多少顧つても居るだらう。茲が我軍の附け目であつた。果して敵戦闘機は可也勇敢に攻撃して來た、攻撃して來る度にボロボロ落された。南京上空約三十分の空中戦闘で落しも墜したり敵戦闘機二十六機を撃ち落した。此の外に煙を吐いて落ちたやうだが確實に地上に落ちるのを見届けなかつたと云ふのが二、三機ある。

敵機と交戦した味方戦闘機水上偵察機は如何かと云ふに前述の水上偵察機一機行方不明の外歸る途中で敵弾その他に依る「エンジン」故障で揚子江に不時着した水上偵察機が二機ある。内一機は敵地であつたから別に飛行機を派遣して搭乗者を救助し飛行機は焼却した。他の機は味方陣地の裏泊して居る所迄辿りついて「エンジン」が止つたので人も飛行機も無事救助された。此外に爆弾を携へて行つた軽爆機が二機行方不明になつた。戦闘に依る我軍損害は三機に對し敵機の損害は敵機二十六機以上その外飛行機や軍用施設に損害を受けて居る。

此種空襲は十九日の午後再度決行された。此時南京上空の敵飛行機は空々たるもので而もその對敵動作は極めて退嬰的であつた。逃げ足が早いので攻撃し難かつたがそれでも六機撃ち落した。これで第一日空襲の成果は確實撃墜機三十二機となつた。

此日の空襲が蔣介石始め支那要人や南京市民に與へた衝動はどんなであつたかと思ふ。二十日、二十二日に連續空襲が決行された。此時も尙若干の敵戦闘機が残つて居たが我攻撃を見ると逃げるばかりで全く士氣沮喪して居た。尤もだと思ふ。二十日、二十二日共各敵戦闘機四機を撃墜したので十九日以後三日間の南京空襲に依る撃墜機数は合計四十機である。之に對し我損害は第一日の三機に過ぎない。

既に敵戦闘機潰滅せる二十二日の空襲は全く無人の境を行くが如く朝から夕刻迄前後七回に亘り航空署、國民黨部、停車場その他軍事施設に對し爆撃を決行したが爆弾は常に正確に敵の軍事施設に命中し、外國人の居住する地域には一發も落ちて居ない。二十二日の南京の混亂は全く思

ひやられると共に若し之が我が日本の都市だつたらと思ふと慄然たらざるを得ぬ。

我軍から見ると生憎だが南京側から見ると幸ひな事には二十一日、二十三日、二十四日は天氣が悪くて空襲が出来なかつた。

我々は支那人の苦しむのを想像して喜ぶものでは決してない。戦禍に憐む無辜の民には本當に氣の毒だと思つて居る。只一日も早く支那人が日本の實力を知つて今迄の侮日的な態度を悔悟することを望むだけである。

南京ばかりではない廣東でも同様な空襲が連続行はれて居た。僅數日間に廣東方面で撃破した敵飛行機数は實に三十機を越えて居る。

讀者は今回の空中戦が何故斯くも一方的であり未曾有の成功を収めたかに就いて不審を抱かれるかも知れぬ。併し結果には總て原因がある。決して偶然ではない。飛行機そのものには大差はない支那の戦闘機は大部分米國製の「カーチスホーク」である。優秀な飛行機である。併し戦闘に於てその働きに格段の懸隔が出来たのは何の爲か。それは精神力と術力に於て雲泥の差があつたからである。私は今更乍ら平素鍛練の偉大さを痛感する。

又前回上海事變の時支那の持つて居た「ボーイング」戦闘機に對し我海軍機は能力に於て及ばなかつたが今回は支那の持つて居る如何なる機種に對しても決して劣らない。支那の飛行機と云ふが總て米、伊、獨の飛行機である。これは海軍機が最近長足の進歩をしたことを語るもので心強く思ふと共に技術關係者の努力に對し感謝せざるを得ぬと共に特に讀者諸君に御傳へたいことは全國民より献金せられた報國號飛行機多數はその胴體に報國小學生號、報國女學生號等の名も置はしく刻まれて南京の上空一杯を思ふ存分荒れ廻り殊勳を立てた一事である。實に帝國海軍が全國民の熱誠に答へる無言の感謝である。

尙今回の支那都市に對する空襲は逆に日本都市防空の上に參考となる事が多々あると思ふ。上海附近の都市例へば杭州、廣徳など燈火管制が誠に良く出来て居る。夜間は月夜でなければ空中から發見する事は困難である。又飛行機が近づくと遠くからその爆音を聞いて全市街の燈火を一瞬に消す所もある。

防空上戦闘機防禦砲火の價値用法等に就いても改めて見直さなければならぬのではないかと思ふ。

最後に附け加へたいのは此の成績の爲に慢心を起してはならない事である。唯かに精神力と技術に於て彼我の間には格段の相違がある。併しそれは日本が優れて居るばかりではない。支那が劣つて居るからである。支那は空軍を整備したと云ふけれどもそれは單に飛行機と飛行士の数を揃へただけで大切な訓練が出来て居ない。射撃でも爆撃でも甚だ拙劣である。又最近支那人一般が愛國的に目醒めて來たと云はれるが空戦の遣り振りに見ると依然として昔ながらの支那人氣質が残つて居る。

今回の戦績を見て將來日本に攻勢をとるだらうと思はれる他の一流國家の空軍も支那同様と思つたら大間違ひである。我々は今回の實績に依り精神技術の鍛練が戦闘力に如何に大きい影響を與ふるかを體驗したのであるから今後は一層精進して飛が上にも戦闘力の向上を圖ると共に兎もすれば列強に比して立後れ勝にならんとする機體發動機の方面に於て一段の努力を拂ふ必要があると思ふ。

近代戦史に不朽の快記録

海空軍の活躍と航行遮断

支那事變の戦火が中南支に伸展するや、帝國海軍は遂に重大決意をなし直に制空權、制海權を完全に把握して、茲に陸海兩軍の緊密なる協力により戦局は進捗し、戦果は着々收められて行つた。就中今次の事變に於ける海軍航空部隊の活躍は皇軍の大捷を決定的たらしめ凡ゆる視角から觀て眞に世界戦史上に不朽の驚異的記録を飾つたものであり、近代戦争に新しき一指標を杭打つたものであらう。

また航行遮断は帝國海軍が創始以來實に最初に試験した平時封鎖であつてこれにより支那の軍需輸送はその路を失ひ、南京政府の財政は痛撃を加へられ支那の糧道はノック・アウトされたのであつた。

空

爆

海軍航空部隊は八月十四日、杭州、廣徳、虹橋、翌十五日には首都南京を始め、南昌、寛橋、杭州に渡洋爆撃を敢行して以来、十二月九日の南昌への長驅爆撃に至るまで、實に約四百回に及んで、支那の海陸空を縦横無盡に飛翔し六十餘ヶ所に鷹鷹の彈火を投下して、敵空軍に起つ能はざる徹底的損傷を與へた、いまその戦果を十二月一日の海軍發表によつて舉ぐれば

事變發生以來撃破せる支那飛行機數

撃墜	確實なもの	稍確實なもの	計
地上爆破	一九二	七	一九九
計	二一一	七	二一八
我方の損害	六〇機	一四	四一七

その後更に撃墜並に爆破したものを加へる時は約五百機に達する、右の外

飛行場 約三〇
 格納庫 約八〇
 軍艦 一八隻 二萬四千トン
 (巡洋艦七、砲艦八、驅逐、水雷、測量艦各一)

その他、軍隊兵舎、砲臺、兵器工廠、彈藥庫等の軍事施設を爆破し更に粵漢、津浦、京滬、廣九浙贛各鐵道要點を爆破して敵の軍隊、軍需輸送を不可能ならしめた、一方地上部隊の進撃に呼應して敵陣地を空爆し或は地上友軍に食糧の空中投下を試みた、海の荒鷲による連續不斷の空爆は遂に南京政府をして徹底的敗退を餘儀なくせしむるに至つた有力な要因となつたものである。

航行遮斷



江上警戒任務に就ける

八月二十五日午後六時より、長谷川第三艦隊司令長官は揚子江口三甲附近から汕頭附近に至る南北約六百八十哩に亘る支那沿岸の區域に對し、支那船舶の出入並に區域内の航行を遮斷する旨宣言し、次いで九月五日には吉田第二艦隊司令長官の名を以て更に北方の支那沿岸に擴張された、これがため支那の武

軍需品、軍需品の海上輸送は不可能に陥り、貿易は杜絶し關稅收入は減少し航運は長江及び内河を除いて全く停止した。

南京政府の財政經濟的窮乏の速かだつたのも、支那沿岸の航行が完全に遮断されて、經濟的觸手がもぎとられたに由るだらう、この間我方の拘束した支那船舶約三百隻である。

事變直前の上海

今次北支事變勃發直後に於ける中南支方面の情勢は、表面比較的平靜であつた。

これは一つは支那の一般民衆も亦事件の不擴大を望んでゐたからであつて、北支の事は北支で解決し、戦果の中南支に波及して、彼等の生命財産を脅かされることを欲しなかつたからであつたが、また一つには、南京政府並に凡ゆる系統の抗日團體の陰險なる潜航的計畫の然らしむる所であつたことが看取されるのである。すなはち、先年の上海事變勃發直後に於ける鳴物入の抗日宣傳の情況とは天いに趣を異にし、寧ろ無氣味なる嵐の前の平靜が存在したのである。

上海方面の情況を見るに、北支事變發生するや、この總都市の市民は、只管金融市場の崩

壊を恐れ、南京政府の態度を憂慮を以て注視したのである。そして北支事變勃發の日たる七月七日から一週間上海市政府成立十週年記念を祝して、市中は非常な賑ひをすら見せてゐたのである。

しかし十一日頃から漸く一部に硬論が盛頭し、十三日頃から、抗日氣勢は逐次深刻化しつゝあつた。それでも尙尙上海市長は、我方は治安維持協力を約し、表面不自然ながら平靜を續けてゐたのである。

然るに、同月二十四日の宮崎一等水兵事件の結果、我陸軍隊が警備配置に就くや、同時に支那保安隊も警備と稱して要所を固め、我方に對抗の姿勢を執るに至つた。

翌二十五日我陸軍隊は警備を解き、平常状態に復歸したにも拘らず、彼の保安隊は依然として其の守所を去らざるのみならず、爾來諸々に土囊を築き、塹壕を構築し始め、徒に民心を刺戟して、全市に不安の氣を漲らすに至り、謠言は流布され、公債は暴落し、人心動搖、上海を後に避難する者漸く多数に上つた。

かゝる折しも七月二十九日、蔣介石のなした彼の挑戰的聲明は、民心をいたく刺戟し、表面特

に不遜の兆なきも、裏面に於て抗日指導に依り、漸次統制する全般的抗日に轉せんとする意圖歴然たるものあるを示すに至つた。茲に於て二十九日我第三艦隊司令長官は、儼乎たる決意を表明して支那關係當局に猛省を促すところがあつた。

かくて八月に入るや、各種の謠言亂れ飛び、いよいよ物情騒然たるものあり、終に日支商取引は杜絶し、食糧不賣の如き電燈、水道の不配給の如き、非人道的暴舉に出づるものあるに及んで、先づ我在留同胞婦女子の引揚げを見るに至つたのである。

其の後大山大尉事件發生するに至つた。

あゝ恨は深し大山大尉事件

上海海軍陸戰隊西部日本人紡績地帯派遣隊長たる大山中尉は、八月九日午後六時半頃制規の服装をなし、水兵運轉の陸戰隊自動車で、上海西方郊外飛行場附近「越界路」を通行中突如支那保安隊の不法襲撃を受けて惨死し、運轉兵も行方不明となつた。

この報に接し現地に急行した我陸戰隊員は、飛行場附近に、機銃射撃を受け大破損した陸戰

隊用自動車を發見し、大山中尉は、實に身に數十弾を浴びせられて即死し、剩へ頭部胸部等に銃創を受け染血に染まつて車側に倒れ、運轉水兵の屍體は附近畑中に放棄しあるのを發見した。

この鬼畜の如き慘虐行爲は、天人共に許すべからざる所であるが、其の原因は支那軍憲に植付けられたる深刻なる抗日意識に依るものであつて、やがて今次上海事變勃發の因を成すに至つたのである。

此事件に依りて上海の空氣は急に硬化し、支那側は、公々然と停戰協定を蹂躪して憚らず、協定に反して軍隊を保安隊に偽裝し、停戰地帯に續々潜入せしめ、大規模の軍事施設を行ひ、我陸戰隊至近の地帯に壘壕を構築する等の挑戰的態度に出てゐたのである。

空爆實戰談

八月十八日旬容空襲の際、負傷して歸り佐世保海軍病院に入院中の我〇〇航空隊の尾崎三空曹——第三期豫科練習生出身、電信員、十四日杭州、十五日南昌攻撃にも参加——は、病床に横たはりつゝ、極めて元氣で次のやうに空襲當時の状況を語つた。

八月十六日南京爆撃に向つたところ、天候不良で視界極めて狭小、南京飛行場を発見し得なかつた位で句容飛行場を空襲した時は、實に高度三〇〇米乃至四〇〇米と云ふ低空飛行をやつた。本空襲で敵の戦闘機五機の攻撃を受けたが、内三機を忽ち撃墜した。残りの一機は不時着、一機は逃げてしまつた。私の機(第一番機大杉大尉搭乗)は「ガソリンタンク」をやられ、ガソリンが漏り出したので上海に不時着しなければならぬかと思つたが、重量物を棄て、やつと〇基地に降ることが出来た。その時は燃料は殆どなくなつてゐた。着陸してから調べて見ると、敵の弾痕が五十八もあり、「タンク」〇〇箇の中六箇をやられて居た。それから驚いたことには私の飛行機のポケットから敵弾が十箇出て来た。當時は風が強かつたので翼端が折れはせぬかと思はれる位羽ばたきした。敵弾が命中する音はバラバラ云ひ、二〇耗機銃弾の中つた時はガーンと大きな音がして炸裂するが、なかなか人には中らぬもので、又飛行機は丈夫なものだと思つた。敵機が落ちる時には手答へがある。逃げる奴には中らないが、吹流し射撃よりも餘程よく中る。敵の戦闘機はなかなか勇敢で空中戦もうまく馬鹿には出来ぬ。今迄我機銃に一度も故障が起らなかつたことは非常に心強いと思ふ。敵の地上見張通信網はなかなかうまく行つてゐるやうで

ある。空襲の目的地へ行つて見ると、溧山の戦闘機が飛んで待つて居る。その中に突撃して行くのであるが、我部隊は皆勇敢でなかには爆撃の効果を見届ける爲にわざと低空旋回をやる者すらあつた。天候不良のため皆分離して單獨空襲をやつたが、編隊爆撃が出来たら、尙一層効果があつたことと思ふ。だんだん空中戦になれて来ると敵機が近寄るまでは打たぬと云ふ迄に氣が落ちて来る。

肉弾空中戦

八月二十三日〇〇艦よりの戦闘詳報に依れば、

一、我が〇〇航空部隊水上〇〇氣六機(二機と四機に分れて行動)は二十一日午前上海上空を警戒中であつたが、右の内二機は、午前七時、敵のカーチス・ホーク戦闘機六機と會し壯烈なる空中戦を交へ、忽ち敵機二機を撃墜した。この時敵機の操縦者一名が、落下傘で降下するのが見えた。

分離別動中の我が他の四機は、午前七時三十分、敵のノースロップ爆撃機六機の編隊飛行なる

を見つけて之に迫り、忽ち二機を撃墜、敗残の四機を極力追撃したが、敵は蘇州方面に一目散に遁走した。其の内の一機は黒煙を吐きながら逃走した。

右追撃中我隊の後尾の一機（矢野一等航空兵曹、親美野三等航空兵曹搭乗）は、突然敵のボーイング、カーチス・ホーク戦闘機四機の奇襲を受け、こゝに前代未聞の空中戦が展開せられた。一騎當千の矢野機は方向舵に損傷を受けたにも拘らず格闘を続け、敵一機を撃墜、更に他の一機に向つて猛然空中の體當りを試み、フロートで以て敵のプロペラーを粉碎して其の機を打落した。この物凄き勢に驚いた残りの敵はもはや立ち向ふ勇氣もなく、傷つける我が機に後を見せ

て逃走した。

矢野機は自らも操縦不能に陥つて黄浦江に不時着水したが幸に我〇〇艦〇に無事救助された本戦隊に於て撃墜した敵機はノースロップ爆撃機、二、カーチスホーク戦闘機、三、ボーイング戦闘機一、計六。

我が部隊の損害は、前記不時着水偵察機一が着水後沈没したのみで、乗員も着水時に輕傷を負つた者が一名あつただけである。

〇〇海軍航空隊附

海軍中尉 山内 達夫

八月十五日〇〇空襲決行後行方不明トナレリ



山内 中尉

八月二十五日、海軍省で右の通り發表された。山内中尉は十五日長瀬渡洋爆撃に参加し、〇〇空襲を決行後行方不明となつたものであるが、その報一と度郷里にある慈母の耳に達するや、次のやうな手紙を海軍省人事局に送つて來た。御國の爲に戦死した軍人の母としての衷情を披瀝し、言々句々、切々として人に迫り、讀む者をして感泣せしむると同時に、襟を正さしむるものがある。海軍省の人々が何れも感泣したといふのも洵に當然である。これこそ日本婦人の代表的好模範である。

感激の手紙

あの子光輝ある帝國海軍航空士官として奉公仕り候事を決死もつて護國の鬼と化しゆるぎ

なき祖國の御爲に身命を捧げまつるを得候事尊く感謝にたえず候
 諱みてかの子既往の事深く御禮申上奉り候あの子は幼少の時より直ぐ正しく清き心の持主
 にて武勇を好める性質なれば必ずや天にうくる大任あるものと信じ候て父は賤しき己が子なり
 と思はず御國の御子なりとしていつくしみ養育いたし來りたる子に有之候
 昭和九年祖國非常時に心を澄まし候て海軍旗のもとにはせ参り候時既にこの最後を明かに決意
 仕り居りたるものにこれあり候

天皇陛下萬歲

大日本帝國萬歲

大日本帝國海軍萬歲

戦死せる子達雄に代り母ヤス

謹みてとなへ奉る

あゝ老いゆく母

月の明るきをながめては泣かんとするか

花の香ばしきをめでては惱まんとするか

あらず

首をあげて空ゆく飛行機を見よ

あれよあの機達雄永へに生きて在るよ

私尙男子三人有之育て見守りつゝ御國のためにはげましめんといたし候

達雄最後といへども帝國軍人としての面目はけがさぬ性格に有之候故御心安く思めし下さいま

達夫母

ヤス謹み上

海軍省人事局御中

敵前猛射の中で機銃修理

こゝにも亦、帝國海軍の「勇敢なる水兵」の物語りがある。

それはあの兒玉水兵の輝かしい殊勳である、寸前の敵を物ともせず、落付き拂つて機銃修理を

し、近づく敵を殲させた事である。

それは過ぐる八月二十二日午前四時頃であつた。上海の閘北、虬江路前方に陣取つた敵主力部隊が我が海軍陸戦隊、佐野〇隊に挑戦して来た。それは同方面に於ける第五回目の交戦であつたが、敵は優勢を恃んで我が前線守備の一部が手薄と見て取り、北停車場附近の砲兵陣地から打ち出す迫撃砲、焼夷弾の掩護の下に、曉の月影を踏み砲煙を潜つて、機銃、小銃を亂射しつゝ猛撃して来たのである。

虬江路の北四川路口を守つて居たのは、僅かに前友隊長の指揮する〇名、勇敢に邀撃したが、敵の襲撃は益々激しく、四時二十五分頃には、敵は鐵路を乗り越えて前進し來り、彼我の距離は百メートルばかりとなつた。折柄敵砲兵陣地から飛來した焼夷弾が、前友隊長の直ぐ後方に轟然と炸裂した「あッ、やられたッ」と叫んで前友指揮官が倒れた間髪を容れず、また一弾、池田一等水兵、山田二等水兵、西田三等水兵が悲痛な聲を擧げてバタ／＼と倒れた。間もなく續いて更に飛來した砲弾が、土壁の上に炸裂して、中山一等水兵、富永二等水兵がまたやられた。のみならず〇門の機銃も破壊されて我が方の銃聲はために沈黙を餘儀なくされた。これを見て取つた敵

は得たり賢しと前進、五十メートルの近距離まで進出して來た。



兒玉水兵

この時である。奇蹟的に微傷だも負はなかつた兒玉一等水兵は、晝間故障のため傍らに放任してあつた機銃に着眼、素早く懐中電燈を點じ、彈丸雨飛の下に急ぎ修理に着手した。敵は四十メートル、三十メートル、二十メートルと次第に肉薄して、あはや我が陣地突破と見られた折から、兒玉水兵の努力空しからず、機銃は應急修理が成り、彼は渾身の勇を奮つて火蓋を切つた。逸やりに逸やつて肉薄して居た敵はバタ／＼と倒れる。いま迄黙して居た我が陣地からのこの不意の射撃に、驚愕狼狽した敵兵は、算を亂して後退し始めた。兒玉水兵こゝぞとふんばり、射ちに射ちまくつたので、敵は後退に後退して、午前四時五十分頃完全に敗退し、〇〇〇〇の生命線は、兒玉水兵一人の奮闘により確保されたのである。急を知つて駆けつけた宮崎部隊長以下戦友の前に、重傷で倒れて居た前友隊長はすつくと立ち上つた。兒玉水兵の雄々しい姿が朝霧の中にすつきりと浮び出た。宮崎部隊長の顔を見るより早

く「部隊長殿、隊長以下一同負傷しました。併し敵は神靈の加護で敗退させました」と報告する。 「お、よくやつた、貴様のお蔭だ」と兒玉水兵の手をしつかり握り締めて感謝する宮崎部隊長は、感激の涙を浮べて續く言葉もなかつた。 眞夏の夜がしらんと明けて、血腥さい風が戎衣の袖を吹くのであつた。

二座機に四人鈴成り

海の荒鷲中尾機の放れ業

十月七日、黄浦魚雷艇庫爆撃に赴いた〇〇海軍航空隊の船田正中尉の水上機が壮烈な任務を果して歸還の途中珠江上において不幸敵弾をうけて大膽不敵な敵前不時着をやつた折柄さきに密雲のためにはぐれた偵察の中尾虎吉航空兵曹長、操縦三宅秀吉三等航空兵曹の僚機が空から船田機の遭難を発見して冷静沈着よく敵前救助をやつてのけたまでの中尾兵曹長の輝く武勳の数々とともにこのほど〇〇航空隊司令官から海軍省にもたらされた。

黄浦魚雷艇庫爆撃の歸途、續く二三番機の僚機を見失つた船田機は單機歸還の途中珠江上に敵

の砲艦を発見して直に急降下、撃ち排つてゐるうちに不幸敵弾が潤滑油タンクに命中、油が漏れ出し遂にエンジンが停つてしまつた。

やむなく江上に不時着、猛射を浴びせて来る兩岸の敵と應戦しながら乗組の船田中尉、平井兵曹の二人は水中に飛びこんだ、このとき偶々一番機船田機の行方を求めて飛んでゐた二番機中尾機、三番機が眼下に不時着してゐる船田機の奮戦ぶりを発見直に中尾機はこの旨本隊に無線報告をするるとともに、三番機に情況報告のため急速歸還を命じて矢庭に江に浮ぶ船田機の傍らにまつしぐらに着水した。

兩岸の猛射はいよ／＼激しく、救助困難、中尾機は再び離水して空中から敵を掃射、さしもの猛射にひるむ隙に機敏に再び着水して二人を機上に救ひ上げた、中尾機は二座機、この二座機の水上機に四人が乗らなければならぬ、そこで船田中尉は操縦席の傍方に馬乗りになつて上翼の手掛けにつかまり、平井兵曹は電信室に潜り込み、船田中尉が振り落されぬやうに機がフラ／＼するほど速力をへらして無事本隊に凱旋、こゝにまた一つ海軍「空の話題」を賑はすことゝなつたのである。

なほこの激しい敵前不時着ならびに救助の間にあつて船田中尉が眼の上に軽傷を負つただけだつた、殊勳の中尾虎吉兵曹長（三八）は福島縣田村郡宮城村大字高倉字羽廣一三四出身、去る八月三十日には〇〇の上空警戒中、フーヴァー一號の艦側近くに落下した爆弾を見て敵機來襲を知り僚機とともに敵の戦闘機三機と交戦、その一機を撃墜した。

また十月二日には廣州行營爆撃のときには敵戦闘機の眼前で悠々爆撃の目的を達して後、敢然急上昇して敵のカーチスホーク三型戦闘機四機を向ふに廻して壯烈な空中戦を演じること約三分、遂にその一機を白煙の中に葬つてしまつたこともある。

船田中尉の郷里は栃木縣下都賀郡赤麻村である。

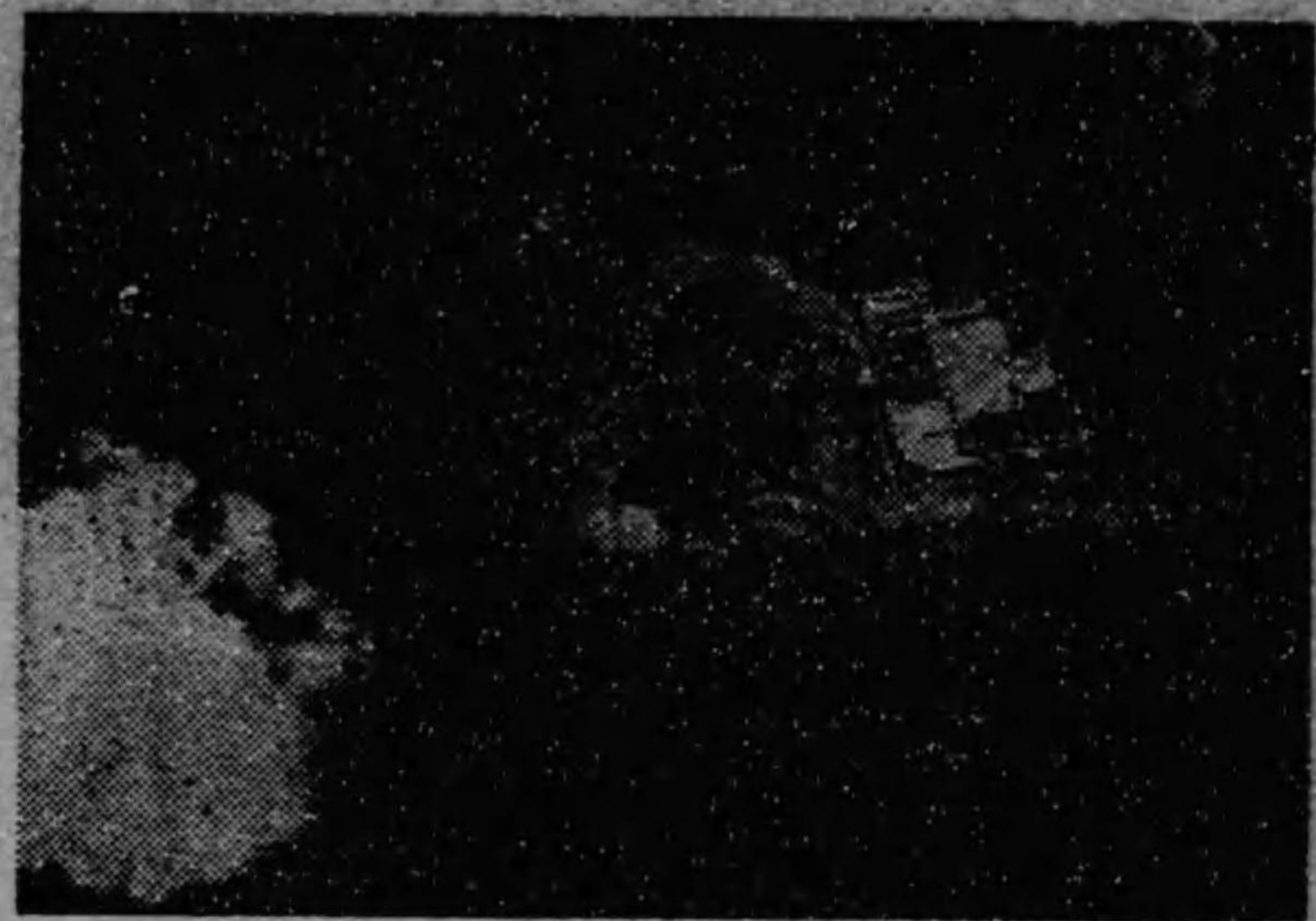
決死總攻撃の陸戰隊

壁一重隣が敵陣

〇〇〇總攻撃の命令を受けとつた陸戰隊大西部隊長は麾下全將兵を集合ただ一言「諸君の命をこの大西にくれ」と大喝した「おお」言下に怒濤のやうに起る答へ、秋の野になびく薄のやうに

上る全將士の手、朝もやけむる戦線に一瞬たちこめた壯烈鬼神も哭かせる意氣はこゝに一つに凝固したのだつた、そして前回の上海事變の思ひ出も新しい〇〇〇〇〇をすぐ前にのぞむ戦線に敵

を睨んでゐるのだ。



我軍の爆撃同時間

民家の裏に土嚢を積み或は鐵板を立てかけてこんもりと出來上つてゐる穴倉がわが堅壁だ壁一重隣りが敵陣だといふ〇〇〇の戦線だ。いたるところに「靜かに歩け」「光りと音に注意せよ」と書かれてある。ガタリといへばドカンと手榴弾が投げ込まれるこの前線である。穴倉の銃眼から覗けば〇〇〇〇〇は眼の前、一階の入口を土嚢で埋めその前に土嚢陣を布きそのまた前に鐵條網が二重に張られてゐるのがハッキリと見える、わが軍によつて電力が斷たれるや敵はフランス租界から電線をひつばつて來てこの鐵條網に

強力な電流を通じてゐるのだ。〇〇〇〇〇から五十メートルほど前方の民家へ地下道を作りこの

民家からわが兵を盛んに狙撃する、飛行機が飛ぶと地下室に逃げ込んでケロリとしてゐる、しかもこの民家には床に地雷火式に手榴弾をいつばい敷き天井にも手榴弾をいつばいぶら下げてるといふのだから迂闊に突撃も出来ない、鐵兜の端にブラ／＼してゐる手榴弾が觸れたらおしまひだ。

しかも民家の近くは縦横に掘り下げられ外側の扉といふ扉には無数の小銃或は機銃の銃口が草にかくれて一、二寸出てゐる、何も知らず突撃したわが兵は扉まで行つたトタンに下からパンと射貫かれる、したがつて陸戦隊の負傷者のほとんどが内股から上へ向けて傷をうけてゐるといふ有様だ、この鞏固な敵陣と深き背を没し幅十メートル餘りにわたるクリークを挟んで相對してゐるのだ、時々チヨロ／＼と土裏の間に動く敵兵めがけて思ひ出したやうにわが機銃が鳴つてゐる、空は晴れた「久しぶりで晴れたんだやつつける前に日向ぼつこをさせてやる手もある、せいぜい首でも甲羅でも干しとけよ」と前方の敵の土裏を睨んで我が兵達は心から殲滅戦の日を首を長くして待つてゐたと云ふ。

燃ゆる、大鷲の離れ業

右手で投爆・左手で消火

征空萬里、海の荒鷲の猛勇ぶりはこれまでさまざまと傳へられてゐるけれども、これは敵陣爆撃に赴いて燃料タンクに敵弾命中機體は忽ち火焰に包まれ、あはや肉弾とならんとしたとき、沈着果敢よく燃えさかる機上にあつて消火作業に努めながら無事基地に歸つて來たと云ふ沈勇の士——大石松四郎航空兵曹長を機長とする新鋭大型機の搭乗員一同をめぐる武勳の一片である。

十月二十九日某重要地點爆撃に参加したわが〇〇海軍航空部隊中の一機——大石機は南翔の西方上空で敵陣から射ち出された大口徑機銃の一弾を燃料タンクにうけて機は猛烈に火を吹き出した、機長大石兵曹長は機の武運もはやこれまでと直に敵陣めがけて降下突撃を命ずるとともに大小の爆弾數個を敵陣めがけてあとから／＼釣瓶落しに連續投下

今や機は燃える肉弾機となつて南翔の空に長い恨みを残すばかりとなつた瞬間、操縦員稻葉一治二等兵曹の報告に操縦装置に異常がないこと判明、こゝに大石機長は再び若し出来るなら

ば味方の陣地に不時着すべく急遽反轉を命じた。

一方この間搭乗員は全力をあげて燃え燃える機上を縦横に駆けめぐつて消火に活躍、なかにも佐々木壯之助一等整備兵曹は敢然消火器を握り坐席から飛び出して炎々たる火中に挺身、消火液のある限り、腕の力の續く限り遮二無二消火に努めた、遂には両手の手袋で火を揉み消すといふありさまで、さしもの猛火もこの乗組員の決死の奮闘の甲斐あつて火勢はだん／＼衰へて間もなく鎮火、全くこゝに大石機は壯烈果敢な凱旋をしたのであつた、〇〇飛行場に歸つて来た大石機一敵弾と火災のために見るも無惨な姿であるとはいへ、搭乗員の冷靜沈着機宜に適つた應急處置によつて、愛機を圍んで凱旋を祝し合ふ戦友にたゞ一人の死傷者もなく、今やこの空の離れ業を語る人間く人の間に新たな感激が頰ち合はれたといふ。

大石兵曹長は北海道空知郡山部村西十四線八の出身である。

南京爆撃隊勇士の血戦手記

これは南京空爆の勇士の血戦手記である——山梨縣中巨摩郡池田村中一〇二祐一郎さんの息海

軍一等航空兵三井豊治君(二二)が左臀部貫通銃創の身を横須賀海軍病院の眞白きベットに横たへいまは亡き戦友に對する烈々たる復仇の闘心を白衣の胸にをどらせながら認めたものである。

敵空軍及び空軍根據地潰滅の使命を帯び八月十五日悪天候を冒して第一回南京攻撃を行ひしより回を重ねること當隊のみにても四回、南京は敵の首都、蔣介石を始め軍政兩部要人らの作戦根據地、従つてその防備は極めて完備せるものにて數回の我が空軍の果敢なる攻撃にも屈するところなく尙相當の空軍兵力その大校場飛行場にととの情報を得わが隊はこの空軍を潰滅すべく八月廿二日夜來三回の南京攻撃を敢行せり、午後十時半第一攻撃隊より探照燈照射甚だしく飛行場發見困難の無電を受け直ちに出發任務につく、南京上空に達すれば十五、六基もの探照燈を一齊照射され飛行場發見困難なりしも、高度を少しく下げ推測位置等により飛行場上空と覺しき方向に飛び旋回数、漸くにして飛行場をたしかめこれに爆弾を投下せり、この間地上から高角砲、高角機關銃等の射撃盛んにして我もまたこれに應射す、われに被害なく無事基地に歸り翌廿四日四度南京夜間爆撃を執行することゝなれり、當夜は平本少佐指揮の下に〇機を以て午後〇時基地出發、天候快晴なれども月の出おそく暗夜の支那大陸を一路南京目指して飛翔す地上は一燈だも

見えすその完全なる燈火管制には驚嘆せり、南京上空に達し旋廻するもその探照燈は一基、二基時々われを照射するのみにて昨夜の如き猛烈なる照射なしこの頃、月東天にのぼり南京市街は影繪の如く浮んで見ゆ、一隊先行しわれこれよりやゝ遅れてつゞきまさに大校飛行場へ向はんとせし時突如月光を浴びて敵戦闘機一機また一機計五機忽然とその姿を現はせり、忽ち空中戦は開始され彼我が射ち合ふ音物凄し、身邊を敵弾のヒューヒューと過ぐるを感ず我は直に射撃の位置につき、下方より襲撃する敵機に二、三十發を發射す、遁走せる敵機、我が二番機の後方付近にて火災を起し墜落せるを見る、再び射撃せんとせしとき左臀部に衝撃をうくるも左足一帯痺れたる如き感しにて大した痛みは覺えず、なほ二、三發を射せる時はじめて出血甚だしきを知る、この時ガソリン・タンク射ち抜かれ、ガソリンは一時にドツと胴体内に吹込み、四邊一面ガソリンの海となる射撃不能、胴体内に入り傷口を繃帯す、ガソリンの流出甚だしく今にも火災を起さんばかり火災を起さばそれまでと既に覺悟をなし拳銃を手にする者もあれど幸ひに火災とならず、燃料は半ば以上を失ひ基地まで航行し得るやも不明となれども速力を減じ燃料消費量を小となし他機より遅るゝこと二時間半幸ひにも無事基地に着く、尙歸着後聞くとところによれば今日の爆撃は

相常有効なりとの評あり、一度び攻撃を開始せるより暴戻支那軍潰滅の命は矢繼ぎ早やに下り我等日夜寢食を忘れて奮闘し居れども敵戦闘機の活躍も亦天晴れなるものあり、毎日の攻撃に敵地奥ふかく展開されし空中戦は實に壯烈言語に絶するものにて、この空中戦の結果遂に敵戦闘機の好餌となり機と共に散り護國の鬼と化せる戦友も少からず、我れ負傷し戦ひ半ばにして傷つき後送されしを返すゝも残念に思ふ、一度敵地上空に入る時はそこに多数戦友の御靈の鎮座ましまするを憶ひ、報仇の念に胸の躍るを覺ゆ、幸ひに我等命を止め傷は早や快癒せんとす、この上は一日も早く退院、再び第一線に立ち亡き戦友の弔合戦をなすべく命ある限り闘はんのみ便々として一日も安閑と過すべき時に非ずと思ふ、希くば一日も早く退院を許されんことを……

基地に於ける猛鷲の勇士等

海軍〇〇本部〇〇部長〇〇大佐は、連日渡洋爆撃を繰返しつつある海軍航空部隊の基地たる〇〇及〇〇を視察し來り、基地に於ける模様を左の如く語つた。

「空襲の命を受けると其の部隊は文字通り勇躍任務に向つて居る。其の命令たるや充分困難の多

い、平時ならば一寸計畫も出来兼ねる様な難作業だが、一同は命令を批判する様な氣持は全然なく、唯だ喜び勇んで飛び出して居る。

渡洋大爆撃行を終つて歸つて來た時、紋切型の報告を終はると最早手柄話などに打興して居る者はない。時として僚機が悲惨なる最後を遂げたのを目撃して歸つて來ても其爲に憂鬱な風をしてゐる者もない。寧ろ復讐の念に燃えてゐる丈で……それとても實に冷靜だ、一同は明日の任務の爲に何より先に休養をとつて艇聲雷の如しだ。

涙ぐましいのは、整備員の奮闘だ、彼等は明日の戦闘の爲に發動機の手入と調整に寢食を忘れてゐる。希ふ所は自分の整備した發動機が無事故故障なく全能を發揮して呉れる事だ彼等は整備が終ると發動機に神酒を供へて其の武運長久を祈つてゐる。至誠天に通づるのか、未だ會て數度の遠征に於て發動機の故障を起した事がない。十數回の壯舉に於て我海軍航空隊が空前の大成功を収めてゐる陰れたる貢献として我飛行機の性能が全く優秀な事と、之等整備員の血のじむ様な努力とを忘れてはならぬ。

それから基地に於ける警備として戦闘機部隊の苦心には全く同情に値ひすると思ふ。

彼等は萬一敵爆撃機が我基地に空襲する場合、我爆撃機を保護する爲何時にても飛上つて敵機を撃墜する任務を與へられてゐるので、一刻と雖も油断なく準備して直に飛揚する姿勢にあるのだ、所が幸か不幸か敵機は未だ會て一度も來襲せぬので、日々爆撃機の偉効を眼前に見ながら自分達は一心不亂に基地の警備に従事しながら一度も戦闘を交へる事なく脾肉の嘆を呻つてゐるのだ。

支那空軍は決して輕視は出來ぬ、飛行機其のものも世界一流の優秀機で而も乗員はなかなか勇敢で、技術も優秀なのが尠くない。我航空隊は鼻唄交りに片つ端から敵機を撃ち墜してゐるなんか思つたら大きな認識不足だよ。我部隊は常に全力を盡して戦つてゐるのだ、向ふが弱いんではない、コチラの忠勇熱誠が強いんだ。我飛行機乗員は勿論常に決死の覺悟を持つてゐる。落下傘は持たなくても日本刀丈けは持つて行つてゐるね、皆士官も下士官兵も全く立派にやつてゐる涙ぐましい様だ。高等商船學校出身の特任士官なんか全くハリ切つてゐて目醒ましい働きをしてゐる銃後の應援に對しては皆感激してゐるよ慰問品なども子供の様になつて奪ひ合ふ様な有様だ。」

銃後の赤誠

四〇

海軍將兵の戦線の美談が傳へられ赤誠溢るゝ國民は、感激と、感謝を涙と共にして銃後を護る國民は海軍省へ献金、献納をした。

思へば銃後にかくの如き美しい國民の赤誠あればこそ、戦線の將兵は強いのである。献金献納の國民は「戦線で身を以て、死を以て活躍する將兵の勞苦を思ふとき、吾々はジツトしてゐられなす」といふ。

かくの如く戦線と、銃後の美しい魂——これを大和魂と呼ぶか——あつてこそ、吾が大日本帝國は永劫不變である。

今回の事變の如く國民舉げて、否世界各地に居住の海外同胞まであげて献金、献納の美舉に出たことは前例がない。

國民精神總動員の秋、昭和十二年十二月十三日敵都南京は陥落して國民は舉げてその戦捷を祝

ふ榮譽を擔ふた。

今後に於ても吾々國民は益々勝て兜の緒をしめ、堅忍持久、非常時日本に盡さねばならないと信ずる。茲に銃後赤誠の顯れ献金美談の一、二を蒐めて贈るものである。

童謡當選の懸賞金

千葉縣君津郡木更津南町一三六五同町小學校四年生岸照子さんは、可愛い筆蹟にあふるゝ様な赤誠をこめて、將兵慰問金の一部に加へてもらひたいと十圓を郵送して來た。その文面によると飛行協會が主催で全国的に募集した「飛行機」と題する童謡に、美事一等に當選して賞金十圓をもらったので、御國の爲めに働いてゐる兵隊さんに何か買つてあげたいと、幼な心に思ひ立つて郵送して來たものと判つた。(七月二十三日)

殉職航空兵の遺兒

福島縣相馬郡小高町佐山翼君から海軍國防費の一端にと小爲替五圓が送られて來た。翼君は十

一年十二月にお誕生した、然もお父様を知らぬ赤ちゃんであるため、お母様の咲子さんから、愛國の赤誠燃え、熱情溢るゝばかりの手紙が添へてあつた。

それによると翼君のお父様、佐山理氏は館山航空隊の三等兵曹であつた昭和十一年六月二十六日横須賀鎮守府の基本演習に参加して、九三式艦上攻撃機に搭乗して演習中不幸にして機體の故障から千葉縣安房郡神戸、大神宮山林中に墜落して殉職した。

その時は翼君は、まだ咲子さんのお腹にあつたので、葬儀を済ませると咲子さんは郷里福島縣に歸郷した。

そして牛れたのが男だつたので、夫君が航空兵だつたのを偲び翼と命名した。

翼が大きくなつたら、立派な海軍の航空兵に致します。

そしてお父様の命まで御奉公をしてみます。

と今は亡き夫君の寫眞を掲げた佛前で、朝な夕なに之を誓つてゐる。

この母親の心知つてか、翼君は海軍マーチや、飛行機が好きで、廻らぬ舌で父を呼ぶ、その子は母乳がなくてミルクで育つてゐた。

そのミルク代は役所から支給されてゐたのだが、もう翼君も軽いお菓子や、御飯を戴く様になつたので、このミルク代を献金するとして送つて来たものであつた。

係官もこの切々たる涙の出る様な文字を以て綴られてゐる手紙に感激、感謝して海軍機製作資金の一部に加へた。(七月廿四日)

親日ドイツ人の誠心

東京丸ノ内二丁目一四合資會社三洋商會の支配人ドイツ人ヨハネス・ケルン氏は總務部長野中直一氏と海軍省獻金係を訪れ、極めて流暢な日本語で

現地に働く將兵の御苦勞はお察し致します、これは僅かですが會社の人達の寸志です、將兵慰問金の一部に加へて下さい

と二百五十圓を獻金した。

ケルン氏は一九二三年に來朝、大の親日家で小學校のハナハトから研究し、今はどんな漢字でも書ける程で、日本語は勿論得意である。同商會は大阪、名古屋、吳、大連等に支店を持ちベル

リンには支社を有してゐる工作機械及び貿易を行つてゐる。(七月廿四日)

四四

三井合名から五萬圓

東京日本橋區室町、三井合名會社(代表男爵三井高公氏)では時局を痛感して、海軍將兵慰問金の一部にして下さると七月廿六日考査課長佐々木四郎氏が海軍省を訪れた。

淺野王國の令息達

芝區田町五の一六淺野セメント株式會社その他淺野系王國の淺野總一郎氏の令息、令嬢、専修大學一治君、慶應普通部二年博正君、同幼稚舎六年生五郎君、學習院中期一年芳子さん、慶應幼稚舎四年忠男君の兄弟五人は揃つてお小遣ひを引き出して、海軍の將兵さん達に何か買つてやつて下さると獻金した。

日本鋼管が卅萬圓

川崎市渡田に本社を、東京丸ノ内に營業所を有する日本鋼管株式會社の社長白石元治郎氏は常務取締役松下長久氏と海軍省を訪れて米内海相に面會して、海軍國防費にと卅萬圓を獻金した。(七月廿八日)

瑞西生れの親日家

スイツツル牛乳で既に内地に廿四年間住んでゐる親日家——東京丸ノ内三丁目有樂館内の海外通商株式會社重役ゼー・ミューラー氏は祕書と共に海軍省を訪れて達者な日本語で戦地で働いてゐる兵隊さんは御苦勞さんです。お蔭で私達も安心して商賣が出来ます。これは僅かですが、戦線の兵隊さんに何か買つてやつて下さる。

とボンと千圓を獻金して係官を感激させた。(七月卅日)

四五

東京市立中小學校が報國號

東京市教育局片岡庶務課長、茂串仰高尋常高等小學校校長高藤第二市立中學校長、宮内與三郎氏の四名は代表で、東京市立小學校、中學校職員生徒一同から釀出の金で海軍報國號獻納のため十萬圓を獻金した。

これは現下の重大時局に小學生、中等學校生徒を通じて六百萬市民にこれを正しく認識徹底を期する爲めに、愛國勤儉日を設けて釀金したもので

第一回は七月十六日から五日間に亘つて行つた。

小學生は一錢以上五錢まで、中等學生は五錢以上十錢まで、教育局及び職員は十錢以上五十錢を一日一人が毎日節約する様にした。

或る者は日の丸辨當によつて、或る者は紙墨又は電車賃を、バス代をあらゆる節約をして生み出したものである。

かくして第一回は八萬二百四圓六十八錢を得たので、この半額を海軍へ獻金。

更に第二回は九月一日から五日間行つて獻金したが、この小國民の銃後の赤誠には係官も深く感激した。

松屋百貨店から一萬圓

銀座松屋呉服店の社長古屋惣八氏は秘書と共に海軍省を訪れて

在支帝國海軍將士の勞苦には國民として深く感謝してやまない。

僅少ではあるがその勞に報ひる爲めに獻金します。

と一萬圓を將兵慰問恤兵費にと獻金したので係官もこの熱情に深く謝した。(八月二日)

寶塚少女歌劇花組

東寶劇場に出演の寶塚少女歌劇花組生徒は非常時海軍の認識から、勞苦に謝したいと生徒が眞心をこめ慰問袋百個を作成。

東劇主事長谷川十四郎氏に引卒されて、代表者奈良美也子さん他十四名が海軍省を訪れて

僅かですが、私達が眞心をこめて作りあげたものです。どうぞ在支艦隊將士の方々に送つて下さる。と献納した。



後続の赤誠貧者の一燈

貧者の一燈を地で行く

世田谷區千駄ヶ谷五丁目九九六の長屋に住む、三十世帯の人々は、全くその日暮しの者ばかりである。この爲にも町内でも、町會費、衛生費寄附金等の凡ての金が出る事は一切遠慮してゐる有様である。所が今回の事變で江部彌吉さん他三名が「かやうな時に國家に御奉公を致さなければ日本國民として價値がない」と、時局を認識して長屋に檝を飛ばした結果、二十個の慰問袋が出来上つた。そこで代表者四名が海軍省を訪れて、

「私達の生活状態ではこれで精一杯です。どうぞ海軍將兵の爲に送つて上げて下さい」と差出したので、係官もこの血の出る様な零細な金で出来た慰問袋に、厚い感謝の意を表した。(八月三日)

親日ドイツ人が献金

神奈川県茅ヶ崎海岸のドイツ村に住む、ユンケル飛行機會社日本總代理店總支配人エルヴィン・フオ・コツホ氏(五十五)は、在留既に十餘年で大の親日家である。茅ヶ崎海岸に永住の目的で、在京ドイツ人を説いて廻り、現在では同所に親日ドイツ村を建設するに至つた。

かくてドイツ村に住む人々は皆親日家になつてしまつた。ときに非常時日本の姿が描き出されるに至つたので、黙つてみてゐられないと、日頃好きな海軍へ百圓を献金し代理者が海軍省を訪れてコツホ氏の心から出た行爲で實に感心なものです。

海軍將兵の慰問金として使つて下さいと述べたが、外国人のこの熱意に係官も深謝した（八月三日）

五〇

大阪から急行で上京

八月四日の午前、海軍省を訪れた紳士は時局重大の折柄ジツトして居られないので、急行に乗つて献金に参りました。私の会社は日頃海軍に多大のお世話を受けてゐるので、心ばかりのものです。が將兵慰問金に加へて下さい。とボンと千圓を献金した。この紳士は大阪市東區今橋五丁目、旭法瑯株式会社（専務取締役植村建津氏）を代表した植村雅尙氏である。係官もこの熱心さにはつく／＼感激し深く謝するところがあつた。（八月四日）

高島屋から一萬圓

日本橋、高島屋呉服店の社長飯田藤二郎氏は社員と共に、海軍省を訪れて海軍機の製作費の一部に加へて下さいと一萬圓を献金した。

P・C・Lの入江たか子さん

P・C・Lの人氣スター入江たか子、竹久智恵子、江戸川蘭子の三女優は、専務大橋武雄氏他役員に引卒されて海軍省を訪れて、入江たか子が一同を代表して海軍將兵の勞苦は如何ばかりかとお察し致します。私達が安心して暮してゐるのも、皇國のため活躍してゐられる將兵さん達の爲で、たい感謝して居ます。と述べて同社關係會社の名儀で、海軍將兵慰問金にと五百圓を献金した。（八月六日）

全國藥業家組合有志

東京日本橋、藥種販賣製造玉置合名會社及び全國藥業家組合有志は、かねて海軍に對して装甲自動車及び索引車各一臺を獻納することを申請してあつたが、代表者玉置會社他が海軍省を訪れ

て三萬圓を献金した(八月七日)

八十斤を自轉車で

朝から暑かつた午前八時。

青年學校の制服を汗にすつかりぬらして海軍省を訪れた十二名があつた。

この青年達は千葉縣茂原町の青年學校生徒で

數日前に海軍國防費へ献金の爲めに映詩會を開催した。

この趣旨が徹底した爲めに客も多く百圓の收入を得たので、その半額を持つて代表千賀照二

君他十一名が訪れたものと判つた。

一行はこの日、實に午前零時起床。氏神様に参拜して自轉車で八十キロの道を飛ばして來たもので、係官もかくの如く遠い所からの赤心に感謝した。(八月八日)

牛蒡堀の農民から

埼玉縣大和田憲兵分遣隊和智少佐から次の様な手紙と共に涙ぐましい程の貴い献金九圓卅錢が送られて來た。

海のないこの村民も、祝祭日に輝く海軍旗をみて海國日本の姿をはつきり認識して居る。時局重大を知つて渡邊宗吉さん他十五名は慰問金に加へて下さいと九圓卅錢を献金した。この貴いお金は十六名が毎日炎天下で、地下一米も堀り下げて牛蒡堀りをやつてゐる誠に貧しい農民で、僅かに日給一圓を得てゐるものだが

海軍將兵の勞苦を思へば自分達もジツとしてゐられない。
と五十錢づゝを醸出した。

これに親方から酒肴料としてもらつた一圓卅錢を加えたのであつた。
かくて土地の顔役長谷川光氏に引率されて、代表者四名が大和田憲兵分遣隊を訪れたものである。

との報告に係官もこの赤誠に感謝した。(八月八日)

赤誠溢る、貝島家

下關市外豊浦村長府町二七九三貝島慶太郎氏は海軍國防費の一端にと千圓を献金した。
 尚四谷區霞ヶ岳一五貝島家使用人一同（代表貝島炭礦株式會社、東京支店長外谷春作氏）は、
 海軍將兵慰問にと五十七個の慰問袋を献納した。（八月九日）

小笠原父島の消防組

警視廳消防部係長金田警部は海軍省献金係を訪れて、小笠原父島の扇村消防組員から送つて來たものだと五十圓を、國防費に献金した。
 扇村袋澤村世話掛、福本福藏氏及び扇村消防組頭金兒伊助氏の名儀で警視廳へ送つて來たものだが、その手紙によると、組員は時局を痛感して五十名が勞力を奉仕して得たものを貯め、そのうちから送金して來たものであると。（八月九日）

茨城から自轉車で

晝の陽の暑い中を汗ダク／＼になつて訪れた六名の青年團員は
 村の者が送金したより届けた方が誠實が判つてやつて來た。
 と地方辯をそのまゝに五十圓を差出した。
 この青年達は茨城縣筑波郡板橋村青年團青柳千代松君他五名であつた。
 團員が零細な醸出をして五十圓となつたので、この日午前六時自轉車で十五里の道を飛ばして來たものであつたが、

東京は初めてな爲めに道が判らず東京へ入つてから苦勞して漸くたどり着きました譯です。
 と赤誠をこめての事に係官も銃後國民の熱情に感心した。（八月十日）

娘に手を曳かれて盲人献金

午後の陽を浴びて一人の盲人が、娘さんに手を曳かれて海軍省を訪れた。

この盲人は東京神田區小川町二ノ八小泉兼吉さんと言つて
目が不自由のため國家御奉公が出来ぬのは残念です
と述べて將兵慰問金にと卅圓を献金した。(八月十日)

柳橋藝妓の赤誠

東京日本橋區兩國一六ノ二藝妓屋輝おもだかの、お鯉さん(南部輝子さん)はぎ子さん(梅原
つる子さん) 同町川村靜方、小つやさん(伊東喜美子さん)の三名は海軍省を訪れて
海軍の兵隊さん達の御苦勞には常々とても感謝致して居ります、何か御慰問にと考へていま
すが、何分にも思ふ様な事が出来ないのが残念です。
僅かですが、心ばかり上海戦線の兵隊さんに差上げて下さい。
そして私達が内地で、どれだけ感謝してゐるかを傳へ下さい。
と、はぎ子、小つやさんは煙草パット二百個、お鯉さんは下帯四百本、手拭二百本を献納した。
(九月十一日)

生長の家から四千餘圓

教化團體、生長の家本部、理事長辻村植造氏及び光明思想普及會社長服部仁郎氏、他代表者が
海軍省を訪れて
全国各地の支部に檄を飛ばした處僅かばかり集まつたので献金に参りました。
と、述べて將兵の勞苦を謝して後、慰問金にと四千四百九十五圓三十一錢を献金した。(八月十
三日)

寢棺の資金を老婆が

朝早く海軍省恤兵係を訪れた老婆は、よくれた財布の中に、大事さうに包んだ紙包みの中から
小さく折つた五圓札二枚を「慰問金にして下さい」と差出した。
この老婆が更に言葉をついで言ふところは、次の如くで、係官も思はずホロリとさせられた。
「これは私の死んだ時の寢棺の費用にと大事にとつて置いたものですが、私も二、三年は死に

さうありませんし、聞けば國家は非常時ださうですから献金します」

といふのであつて、この老婆は麻布區網代町一七原田いしさん（七八）といふ奇篤な人であるが、聞けばその家庭は眞に可哀さうな状態なので、係官は

「海軍としては、その貴い御精神を戴くだけで結構ですから、思ひとどまられては如何ですか」と一應辭退すると、

「老人の事でお金もいりませんから」

と答へた。そこで、

「では半分にされては如何ですか」

と三度問ふと、

「甚だ僅少ですが、そのまゝ納めて戴きたいと思ひます」

といふので、係官もこの赤誠を受けることになつた。

この老婆の伴（四三）さんは八年前から精神に異状を呈して松澤病院に入院してゐる。このために嫁は二兒をおいて實家へ逃げ歸つてしまつた。

老婆は係（一九）と（一五）の二人を奉公に出し、自分はマツチや洗濯石鹼を行商して細い生活をしてゐる。

町内の人や、方面委員の人達にも、何かと御世話になつてゐるので、この舉にと出たと云ふのであるが、聞けば聞く程の赤誠に係官もすつかり感激してしまつた。（八月十四日）

親日ドイツ人が献金

日本橋區吳服橋三の七エル・レーボルド商館のクルト・マイスナー氏は海軍國防費にと千圓を献金した。

この赤誠の外人マイスナー氏は東京に住むこと卅年で、大の親日家で頗る日本語も達者である暴虐支那膺懲にたつた阜國の事情もよく認識してゐるので、

正義のために徹底的にやるべきだ。お暑い折柄日本の兵隊さんは御苦勞さまでです。と述べて後更に語を次いで

今後はお互に手を握つて進ませう。と日獨防共の言葉をのべ係官を感激させた。（八月十六

南洋興發關係會社

東京麹町區内幸町東拓ビル（東京麹町區内幸町東拓ビル）の南洋興發株式會社の關係會社から、次の如くに多額の献金を海軍慰問金にと届けて来た。（八月十六日）

△二萬六千圓 南洋興發、南太平洋貿易、南興水産、海洋殖産株式會社。

△一萬圓 南洋興發社長、本郷區上富士前町一一三 松江春次氏。

△千七百圓 南洋興發株式會社東京駐在重役、色部米作氏、水野恒路氏、石川忠一氏、布施保次氏、米倉文雄氏。

△三百圓 南太平洋貿易株式會社東京駐在重役柴田鐵四郎氏、大島破竹郎氏。

△二百圓 海洋殖産株式會社東京駐在重役丹下福太郎氏、井上清一氏。

△三百八十圓 南洋興發株式會社東京事務所従業員一同。

△四十圓 南太平洋貿易株式會社東京事務所従業員一同。

△五十圓 南洋興發水産株式會社東京事務所従業員一同。

△三十圓 海洋殖産株式會社東京事務所従業員一同。

三井一家の慰問袋海軍へ十萬圓

三井王國の三井合名會社々長三井高公男は皇軍將士に感謝のため、百萬圓の豫算で慰問袋を製作、出動將兵に一人一個の割で献納を申出た、そのうち海軍へは十萬圓で同社の佐々木考査課長が海軍省を訪れて打合せをした。（九月十七日）

この慰問袋は三田綱町の三井別邸及び麻布區筈町の三井集合所に事務所を置いて繼續製作するもので、三井一家一門の家族、三井の關係事業たる三井合名、三井銀行、三井物産、三井鑛山、東神倉庫、三井信託、三井生命等の各社重役、従業員並にその家族が與けて参加し、一日百數十人を總動員して製作し約六ヶ月を要すると。（九月十七日）

農村の小學生の赤心

若い先生に連れられて小學生四名が海軍省を訪れた。

埼玉縣南埼玉郡八條村大字八條といふ一寒村の小學生達で、同村清勝院内の（み光り子供會）といふ會員である。

同會の主事杉村祐之助氏に引率されて来たのだが、會員は小學生ながら色々話し、聞いて非常時を認識し男女廿餘名は朝勉強が終ると夕刻まで繩をなつて、これを賣つた貴い廿一圓五十錢を慰問金に加へて下さいと献金に來たものである。

尙その際に慰問書、慰問文卅五點を献納した。農村の然もこうした寒村の子供達までが赤誠こもる美しい風景に係官も全く感激した。この慰問文にはこんなのがあつた。

兵隊さん、暑いでせう。僕は三年です。

僕も大きくなつたら兵隊さんになります。日本の兵隊さんは支那兵をコツパみじんにして早く歸つて下さい。

會田つねさん（高等一年）

支那では大變お暑いでせうね。内地でも暑いが支那から思へば何でもありません。私達がこうして何不自由なくして居るのも皆兵隊さんのお蔭です。（八月十九日）

急逝の少女の父親涙の献金

ジリジリと汗ばむ午後の陽が窓から一杯に差込んでゐる。海軍省献金係室を訪れた洋服の紳士は眼に一杯の涙を浮べて

子供が献金に海軍省へ行きたいと作文まで作つて楽しみにしてゐましたが、去月七日突然病の爲めに倒れて遂にそのまゝ逝去してしまいました。

餘り可哀そうでなりません。せめて子供の遺志だけ將兵の方々に傳へて下さい。

と涙のうちに甘圓を將兵慰問金に献金した。この父は東京大森區大森三丁目三三高橋源太郎氏といひ、今は亡き物語りの少女は同町小學校一年生で高橋好江さんといふ。

その作文は片假名で次の如くに書かれてあるが、少女の心持にも赤誠が溢れてゐる。

これをみた係官は思はずもらひなきをしてみました。（原文のまゝ、九月一日）

海軍の兵隊さん。

お暑いのに戦地でお働きなされるのは、随分大変な事で御座りませう。日本大勝利を待つてゐます。兵隊さんさよなら。

匿名献金デー

切々たる愛國民から献金、献納の國民の赤誠には當局係官も、深く感謝してゐるが更に名も告げずに立去るもの、或は發表を堅く断つて行くものの奇篤な行爲には一段と感謝を深めるものであるが、そのうちから二、三を拾つてみる

へ有名な大衆作家 我が文壇の大衆作家として餘りにも有名な某氏の夫人は海軍省を訪れて主人が海軍將士の御活躍には多大の感謝を致して居ります、その勞に報ひ様と一生懸命原稿を書いて居ります。

これは僅ですが慰問金にして下さい。とボンと五百圓を献金した。(九月一日)

この小説家はその後又五百圓の慰問金と、前戦の將兵が思ふひとよきの慰問にと自作の小説集小

冊子を多数献納した。

へ一市民 この日正午ころ海軍省を訪れた紳士は無難作にポケットから五十圓を出して、これを

慰問金に加へて下さいと献金した。

へこれは若き女性達 續いて午後一時半頃事務服姿の女性

は

お友達同志で贖金した金で僅かばかりですが、上海の水兵さん達に何か果物でも買つてやつて下さい。

と優しい女性の心を現はして六圓六十八錢を差出した。

この女性は麹町のある會社に勤める事務員で晝休みを利用して海軍省を訪れたものである。

へ女學校長と一卒業生 午後三時ころ慰問袋卅個を自動車に積んで訪れた二婦人は、一人は某女學校長一人は卒業

生である。校長は十圓を、卒業生は慰問袋を献納した。(九月一日)



「んせまれらゐてしトツヂも連妾」

かつての海の強者が献金

かつては黒鐵の海國の護りにと活躍した勇者、橋會靜岡支部代表土屋虎之助、他卅九名から海軍將兵慰問金にと卅一圓卅八錢が送られて來た。

尙この献金と共に次の様な熱血の手紙が添へてあつたが、代表土屋氏は目下靜岡市千代田尋常高等小學校の訓導である。

靜かに座して黙想數刻、思ひを遠く上海の彼方に致す時、砲煙彈雨、戰火炎々の眞只中に、砲の姿も勇ましく奮戰する、我が海軍將士の有様がはつきりと浮んで見える。果しなき大空に銀翼を連ねて縦横無盡に翔ける、我が海の荒鷲隊の爆音が、さてはワアツト一聲、敵陣目がけてまつしぐらに突進する喊聲の轟きまでが我等の耳底に聞へて來る。
然しこの勇ましい聖戰の陰に又どんなに苦しい幾日かと續く事であらう。
統後にある吾々も正義の刃をとつて立ちたい心持で一杯である
殊に海軍々籍にある吾々は、命令ある時勇躍軍艦旗の許に馳て參する覺悟である。

「國防と教育」その間に立つて働き得る吾々は又どんなに幸福だか知れない。

吾々の分隊長酒井大尉（現海軍省海軍軍事普及部、海軍中佐松島慶三氏、海の詩人として有名な人）は

若きベスタロッツチよ、
希は又若き廣瀬中佐であれ
と教へてくれた。

その貴き教へに吾れ等支部員は今教育奉公の一路邁進を以て忠勇なる第二國民を軍艦旗の下に送る覺悟である。

との名實共に胸のあつくなる文字が綴られてあつた。（九月四日）

上海紡績會社長の一家

東京赤坂區南町六ノ一二五上海紡績會社社長黒田慶太郎氏夫人及び令息、令嬢は一家揃つて海軍省を訪れて

事變前に小供達が上海へ旅行した際に汽車賃その他を節約して得た金で作りました。

と慰問袋卅個を献納し更に言葉を次いで



たれ訪て見り富の目を線戦海上
(佐中島松は服軍の方後)族家の氏田黒

主人はまだ上海に残つてゐる爲め、今度海軍特別陸戦隊員には多大のお世話になつてゐます。厚くお禮を申し上げます。
と述べた。

藤間勘素娥、茂登女會

東京麹町區三番町六ノ一二藤間流日本舞踊家元、藤間勘素娥内の茂登女會員一同は海軍將兵に送つてもらひたいと慰問袋に眞心をこめて百個を作製、

海軍省を訪れて献納した。(九月三日)

愛婦兵庫縣支部海軍機献納

愛國婦人會兵庫縣支部(神戸市神戸區山本通り五丁目四四)代表支部長岡田ぬいさんから海軍機の活躍には國民としてたゞ感謝の他はない、海軍に謝し、海軍國防充實の要ありと會員から醸出したものです

と七萬圓を送つて來た、これによつて海軍報國號をつくることにした。(九月廿日)

報國號飛行機一覽表

名	稱	献納者	機種	命名式年月日
第一號	(ニツケ號)	日本毛織株式會社及同社役員並従業員	偵察機	昭和七年三月三日
第二號	(兵庫號)	兵庫縣民	同	四月七日
第三號	(第一吳鎮守府管下有志者)	吳鎮守府管下有志者	攻撃機	六月九日
第四號	(第二吳鎮守府管下有志者)	吳鎮守府管下有志者	同	六月三日
第五號	(石川縣民)	石川縣民	偵察機	七月十日
第六號	(愛知縣民)	愛知縣民	同	同

第七號(實業學生號)	全國實業學校職員生徒	偵察機	同	九月五日
第八號(鹿兒島號)	鹿兒島縣縣民	偵察機	同	十月二日
第九號(第三吳鎮號)	吳鎮守府管下有志者	攻擊機	同	右
第十號(佐賀號)	佐賀縣縣民	偵察機	同	十月三日
第十一號(北洋號)	日本魯通業株式會社 日本合同工船株式會社 日本合同油業株式會社 沖取合同油業株式會社 工船領水產組合 工船領漁業水產組合	偵察機	同	二月三日
第十二號(橫須賀號)	橫須賀市市民	偵察機	同	三月十日
第十三號(第一乃至第十八號)	東京市神田區三谷てい子	偵察機	同	三月十日
第十九號(新潟號)	新潟縣縣民	偵察機	同	昭和八年五月七日
第二十號(富國號)	富國徵兵保險相互會社	偵察機	同	三月二日
第二十一號(埼玉號)	埼玉縣縣民	偵察機	同	三月九日
第二十二號(橫廠工友號)	橫須賀海軍工廠從業員	偵察機	同	三月六日
第二三號(第四吳鎮號)	吳鎮守府海軍工廠從業員	攻擊機	同	七月三日
第二四號(第五吳鎮號)	廣海軍燃料廠從業員	攻擊機	同	七月三日
第二五號(佐世保號)	佐世保海軍工廠從業員	偵察機	同	五月二日

第二六號(第一橫濱號)	橫濱市市民	偵察機	同	四月三日
第二七號(日向號)	宮崎縣縣民	偵察機	同	四月九日
第二八號(沖繩號)	沖繩縣縣民	偵察機	同	四月九日
第二九號(中學學生號)	全國中學校職員生徒	偵察機	同	五月三日
第三十號(生保號)	生保證券株式會社	偵察機	同	右
第三一號(佐世保號)	佐世保市市民	偵察機	同	六月四日
第三二號(湘南號)	神奈川縣湘南地方住民	偵察機	同	五月四日
第三三號(第一勞働號)	國防獻金勞働協會會員 其他各地工場從業員有志者	偵察機	同	五月三日
第三四號	某有志者	偵察機	同	右
第三五號(第一全國國民號)	全國有志者	偵察機	同	右
第三六號(茨城號)	茨城縣縣民	偵察機	同	五月七日
第三七號(海軍號)	海軍部內有志者	攻擊機	同	昭和九年四月四日
第三八號(川村號)	東京市橋區	偵察機	同	昭和八年十月三日
第三九號(千葉號)	千葉縣縣民	偵察機	同	七月九日
第四十號(第二橫濱號)	橫濱市市民	偵察機	同	九月三日
第四一號(川崎號)	川崎市市民	偵察機	同	十月二日
第四三號(第一南洋號)	南洋羣島支廳管內住民	偵察機	同	昭和九年四月二日

第四五號(第一乃至第三製糖號)	第四八號(第二勞働號)	第五十號(第二全國國民號)	第五一號(第四製糖號)	第五二號(第五製糖號)	第五三號(青森號)	第五四號(神谷號)	第五五號(第一日本鋼管號)	第五六號(第二日本鋼管號)	第五七號(北海道號)	第五八號(渡邊號)	第五九號(福岡縣教員號)	第六〇號(戶畑鑄物號)	六一號(明治生命號)	六二號(不動貯金號)	六三號(長崎市民號)	六四號(大學高等號)
臺灣十四製糖會社	全國各地工場	全國有志者	臺灣製糖會社	青森縣製糖會社	長岡市正治	日本鋼管株式會社	北海道鐵道民	福岡縣教育會	戶畑鑄物株式會社	明治生命保險株式會社	不動貯金銀行	長崎市民	專門大學	高等學校	學生	
戰闘機	同	偵察機	同	同	戰闘機	同	偵察機	偵察機	偵察機	偵察機	偵察機	偵察機	偵察機	偵察機	偵察機	偵察機
昭和八年十月三日	同	同	同	同	昭和九年五月三日	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

第六五號(舞要號)	第六六號(第一倉敷組機號)	第六七號(第二倉敷組機號)	第六八號(愛知時計電機號)	第六九號(共同漁業號)	第七〇號(第一セメント號)	七一號(第二セメント號)	七十二號(福島號)	七三號(文明塔號)	七四號(第三全國國民號)	七五號(第四全國國民號)	七六號(第二南洋號)	七七號(第一南洋興發號)	七八號(第二南洋興發號)	七九號(第三南洋興發號)	八十號(第四南洋興發號)	八一號(三越號)	八二號(東日本洋服號)	八三號(青島號)	
警備區內有志者	倉敷組機株式會社	愛知時計電機株式會社	共同漁業株式會社	日本ポルトランドセメント同業會及セメント聯合會	加藤十會社	福島縣民	朝鮮慶尙北道文明塔	全國有志篤志者	南洋群島中、パラオ・ヤップ、トラツク・ボナベ・ヤルイト各支廳管下官民有志	南洋興發株式會社	三越從業員	東日本洋服商組合聯合會	青島方面在留邦人有志						
偵察機	同	偵察機	偵察機	偵察機	戰闘機	戰闘機	同	戰闘機	戰闘機	戰闘機	艦上攻擊機	艦上輕爆機	艦上戰闘機	水上偵察機					
七月八日	二月二日	十月三日	十月三日	二月三日	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同					

第八四號(第一兒童號)	大日本飛行少年團	艦上戰闘機	同	九月七日
第八五號(教育)	全國聯合小學校教員會	艦上輕爆機	同	十月三日
第八六號(女學生)	全國女子職業學校校長協會 全國女子專門學校校長協會 全國高等女學校校長協會	艦上戰闘機	昭和二年三月六日	
第八七號(西蒲原號)	新潟縣西蒲原郡町村長會 帝國在鄉軍人聯合會 西蒲原郡聯合分會	水上偵察機	同	七月十九日
第八八號(酒造組合號)	酒造組合中央會	艦上戰闘機	昭和三年十月三日	
第九十號(西日本洋服號)	西日本洋服商組合聯合會	艦上戰闘機	同	九月十七日
第九一號(乃)	東京朝日新聞社	艦上戰闘機	式未舉行	
第九二號(乃)	大阪朝日新聞社	艦上戰闘機	同	
第九三號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第九四號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第九五號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第九六號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第九七號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第九八號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第九九號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百一號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百二號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百三號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百四號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百五號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百六號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百七號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百八號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百九號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百十號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百十一號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百十二號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百十三號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百十四號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百十五號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百十六號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百十七號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百十八號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百十九號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百二十號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百二十一號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百二十二號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百二十三號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百二十四號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百二十五號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百二十六號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百二十七號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百二十八號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百二十九號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百三十號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百三十一號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百三十二號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百三十三號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百三十四號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百三十五號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百三十六號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百三十七號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百三十八號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百三十九號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百四十號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百四十一號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百四十二號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百四十三號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百四十四號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百四十五號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百四十六號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百四十七號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百四十八號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百四十九號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百五十號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百五十一號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百五十二號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百五十三號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百五十四號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百五十五號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百五十六號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百五十七號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百五十八號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百五十九號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百六十號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百六十一號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百六十二號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百六十三號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百六十四號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百六十五號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百六十六號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百六十七號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百六十八號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百六十九號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百七十號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百七十一號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百七十二號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百七十三號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百七十四號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百七十五號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百七十六號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百七十七號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百七十八號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百七十九號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百八十號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百八十一號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百八十二號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百八十三號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百八十四號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百八十五號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百八十六號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百八十七號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百八十八號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百八十九號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百九十號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百九十一號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百九十二號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百九十三號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百九十四號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百九十五號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百九十六號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百九十七號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百九十八號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第一百九十九號(乃)	同	艦上戰闘機	同	
第二百號(乃)	同	艦上戰闘機	同	

第一百廿五號(第一住友號)	住友會社從業員一團	艦上戰闘機	同	十二月十五日
第一百廿六號(第二住友號)	住友會社從業員一團	艦上戰闘機	同	十二月十五日
第一百廿七號(住友鐵業號)	住友鐵業所外四社	艦上爆擊機	同	
第一百廿八號(帝麻號)	帝國製麻株式會社	同	右	十月三十日
第一百廿九號(燒酎聯盟號)	全國新式燒酎聯盟會	艦上攻擊機	同	十一月二十八日
第一百三十號(第一東京市教育團號)	東京市教育團	同	右	十月三十日
第一百三十一號(大銀座號)	大銀座聯合町會	艦上爆擊機	同	
第一百三十二號(レイト號)	レイト化粧料本舖	艦上戰闘機	同	十一月二十八日
第一百三十三號(第五全國民號)	全國民有志	艦上爆擊機	同	十月三十日
第一百三十四號(第二東京市教育團號)	東京市教育團	同	右	
第一百三十五號(第一日本蠶絲號)	日本中央蠶絲會	艦上攻擊機	同	十一月八日
第一百三十六號(第二日本蠶絲號)	同	艦上攻擊機	同	十一月八日
第一百三十七號(第一慶北號)	朝鮮慶尙北道民有志	艦上戰闘機	同	十一月十三日
第一百三十八號(第二慶北號)	朝鮮慶尙北道民有志	艦上爆擊機	同	十一月十三日
第一百三十九號(愛婦兵庫支部號)	愛國婦人會兵庫縣支部會員	水上偵察機	同	十一月十日

第四百十號	(大阪有本號)	大阪市東區大川町有本國造	艦上戦闘機	同	十一月十八日
第四百一號	(第一村上號)	東京市京橋區八丁堀 村上喜代次	同 右	同	十月三十日
第四百三號	(臺灣學校號)	臺灣全島小學校	艦上攻撃機	式未舉行	
第四百五號	(滋賀號)	滋賀縣民	水上偵察機	同	十一月三日
第四百七號	(第一樺太號)	樺太島民	艦上戦闘機	同	十一月二八日
第四百八號	(第二樺太號)	同	同	同	十一月二八日
第四百十號	(福岡縣產業組合號)	福岡縣產業組合	艦上爆撃機	同	十一月七日
第四百一號	(全北號)	朝鮮全羅北道 全北號 獻納期成會	同 右	同	十一月十四日
第四百二號	(海軍協會兵庫號)	海軍協會兵庫支部婦人部	水上偵察機	同	十一月十九日
第四百三號	(第一熊本號)	熊本縣民	艦上爆撃機	同	十一月九日
第四百四號	(第二熊本號)	同	艦上戦闘機	同	十二月五日
第四百六號	(全國青年學校號)	全國青年學校職員生徒	艦上爆撃機	同	十二月五日
第四百七號	(第二女學生號)	全國女子専門學校 全國高等女學校 全國女子職業學校	艦上爆撃機	同	十二月五日

國民の赤誠に謝す

海軍省經理局 海軍主計少佐 石淵 知 定



支那事變、勃發以來赤誠溢るゝ國民が、海軍へ寄せた國防及び恤兵献金、或は慰問袋その他の恤兵品、軍需品の献納の數々については、たゞたゞ感謝、感激の他はなく、係官としてこの際厚く御禮を申上げる次第である。思ふに我が帝國が、支那に築いた權益は廿餘年の久しきに亘り、廿數億の巨額を投じたのであるから、事變前は平常に於て我が海軍は、北は渤海灣から、南は廣東までの蜿蜒五千哩の長き海岸線と、揚子江を溯る四千哩の上流、重慶まで第三艦隊が警備し、在留邦人の生命財産の保護と、我が權益の擁護に努めてゐ

たのである。
その間幾度か、抗日にあひ、侮日行爲を受け、或は水兵の射殺事件、或は邦人商館の襲撃事件

等々相續いで起り、従つて一觸即發の狀態は常に繰返されてゐたのである。

然しながら我が海軍としては耐へ難い處を耐へ、忍び難い處を忍んでジツト我慢して來たのである。

かくして今回の事變發生と共に吾が帝國は、斷然暴戻支那の迷妄覺醒のためにたつたのであるが、一刻も早く東洋平和の確立を望んでやまないものである。

が、彼れ等は今尙抗日狀勢をとり、長期抗戰を聲明してゐる次第である。この秋に至つて國民の精神は總動員され、文字通り舉國一致が實行され、都會も、農村も、漁村も、山間の僻村も、たゞ日の丸の國旗のもとに集められるに至つた。

これこそ我が國が世界に誇る、大和魂の眞髓だと思ふのである。皇國の爲め、身を賭して戰ふは武人の常とはいへ、戦線からの一報は、一報毎に華々しい武勳の數々が傳へられてゐる、これに對してはたゞ感謝と感激以外に何の言葉も無いが思ふに將兵がかくの如く、勇猛果敢に働いて呉れるのも一つには銃後に溢るゝが如き國民の赤誠があるからだと痛感してゐる次第である。

更に今回の事變の如く、國民が擧げて献金献納の舉に出たことは、前例のない事で海軍省が去る七月十一日事變關係の受け付けを開始してから十一月末日までに一千二百萬圓の巨額を突破し、慰問袋その他の恤兵品も二百卅萬點を越してゐる。これは即ち、いざと言ふ時に

一君萬民 盡忠報國 の爲めに團結出来る、わが國民の永劫不變、子々孫々にまで脈々として通ずる「皇道精神」に他ならないのである。蔣介石が幾萬、幾百萬の兵を擁すると雖も、斯の如き美はしい情景はないのである。支那の國情を歌へるものに

山は崑崙、流れは長江 民は四億で、五千年 と言ふのがある。四億の民の八割は農民で、これ等の殆どは貧農である、これが兵火に次ぐ災害徵發で全く弱りきつて居る、そんな具合だから多くの國民は、

日出でては耕し、日落ちては憩ふ、吾れ國家に何等の恩恵を受けずと言つた様な事を平然と口にしてゐる。

これに比べて有難く思ふのは吾が皇軍の正義堂々たること、銃後國民の力強い後援である。銃

後の赤誠に燃ゆる國民の應接に暇のない私は、毎日幾度か腫のあつくなるのを感じ、又胸をつか

れる様な場面に接してゐる。
 過ぐる、日清戦役當時の將兵慰問恤兵金は、五十四萬二千圓七十九錢四厘であつた。又日露
 戦役當時は六十一萬五千三百五十二圓六十一錢七厘である。次の青島戦争は十一萬六千九百九十
 二圓四十一錢五厘で共に恤兵金である。更に滿洲事變は將兵慰問の恤兵金六十三萬六千六百五十
 二圓十七錢、兵器その他の國防献金は百十三萬八千六百三十九圓九十四錢であつた。
 かくの如くその数字は次第に増へてはゐるが、今回の如く僅々五ヶ月で十幾倍の巨額に達する
 事は國民の覺悟と熱意の度が全く違ふ事による。
 今回の献金で戰國機をつくれれば二百餘機、渡洋爆撃機は四十機が出来、これだけの飛行機が
 海軍の荒鷲隊に加はつたら、その威力は驚くべきものではあるまいか。
 然し吾が海軍としては金額の多少品物の寡多を問ふのではなく美しい精神を戴くのである。
 然も献金品には一つ一つに美談が織り込まれてゐる、その精神を忘れず銃後の護りを益々固め
 られん事を切望すると、共に海軍への献金、献納に對する國民の赤誠に感謝する次第である。

昭和十二年十二月二十七日印刷
 昭和十二年十二月三十一日發行
 發行所 東京市麹町區 愛國婦人會 印刷所 東京市神田區 金澤町三 南歐印刷
 九段一ノ五
 發賣元 東京市大森區 軍事思想普及會 編輯人 鐵木 眞
 南千束三四九

定價 拾二錢 送料 三錢

中華民國二十二年五月五日

